

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870300864
法人名	有限会社 三幸
事業所名	グループホーム つしま
所在地	愛媛県宇和島市津島町高田甲83-1
自己評価作成日	平成25年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年6月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

高齢の方が多いユニットである為、医療機関との連携を図り個々の症状に合った受診の方法に取り組んでいる。比較的室内での生活が多いため、季節ごとの行事や食事を楽しんだり利用者のペースに合わせた介護を行うように取り組んでいる。ユニット会議では活発な意見も出て、常に利用者の為の生活に何が大切かを考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 入居前、管理者はご家族に、「ご本人の触れてはいけないこと」等も聞き取り、職員に周知して会話等でむやみに触れないよう、気を付けておられる。以前、真珠にかかわる仕事をされていた方と宇和パークに出かけて、真珠を見たり、又、戦争体験のある方と南楽園に展示されている「紫電改」を見に行かれたりして、その頃のお話を聞き、思いや意向の把握に努めておられる。事業所は、利用者の人生の最後まで寄り添うことに取り組まれており、管理者は、利用者の生い立ちやこれまでの経験等を理解し、それぞれの違いを肯定し、受け入れながら支援に取り組まれている。
- 子どもがいる職員には勤務のシフトを配慮されたり、又、子どもが学校が休みの日には、連れて来られるよう別部屋をつくっておられ、職員から、「働きやすく、ありがたい」という感想が聞かれた。時に子ども達は、利用者の居室の仏壇を拝んで、利用者ご本人からお下がりのお菓子をもらうようなこともあり、利用者は子ども達の成長をととても楽しみにされているようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つしま

(ユニット名) やまもも

記入者(管理者)

氏名 土居松美

評価完了日 平成 25 年 5 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 「穏やかにその人らしく過ごせる日々をお手伝いします」「寄り添い共に歩き、ぬくもりのある生活を支援します」を理念とし、入所者さんが穏やかにその人らしく暮らせるよう支え、家族に信頼して頂けるよう、努力している。管理者は支援が難しいケースを検討する際、職員には理念に沿ったケアを導いている。</p> <p>(外部評価) 法人代表者である管理者は、日々のケアの中で事業所の方針や理念を職員に話しながら導いておられ、さらに、「できることを誠実に行なう」ことを重ねて、利用者やご家族との信頼関係を作っておられる。事業所では、利用者の人生に寄り添うことに力を入れて取り組んでおられ、介護のプロとして複数の選択肢を提示し、利用者やご家族が「ご自分達で選び人生を歩める」よう支援されている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 自治会の会合や地域のお祭り等に参加させて頂いて、地域とのつながり続けられるよう交流している。職員の子供たちを始め近所の子供が学校帰りにホームに寄り、入所者の方と話していることもある。また近所の方が季節の花や野菜等を届けてくださる。</p> <p>(外部評価) 日々の交流を通じて、年々、自治会の方達との関係を深めておられ、事業所で行う避難訓練日には、雨が降る恐れがあることを察して、地域の方が自主的に玄関先にテントを張ってくださったり、来客等を察して、玄関等に飾るお花を用意してくださったり、野菜等の差し入れもよくある。時には、自治会の方から地域の気になる高齢者について相談があり、事業所に相談に来られるようなこともある。公民館の草引きや掃除等に利用者と参加されたり、地域行事への参加も積極的に行い、交流をすすめておられる。調査訪問時は、事業所の周りは田園風景であったが、刈り取りがすむと、コスモスを一面に植えてくださり、利用者等の楽しみにもなっている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 2か月に1度の推進会議を通じて話をしている。また職員も、研修に参加し実践を通じて支援の方法を学び、地域での認知症介護に活かしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 日程は固定しているが運営推進会議のメンバーの方はなるべく会議に参加できるよう配慮して下さる。毎回ホームの行事、日常生活の様子を報告して、会議で提案された事を実践している。</p> <p>(外部評価) 会議は、自治会の方達や市の担当者の都合に配慮して、第3水曜日の13:30からと決めて2ヶ月毎に開催されている。会議では、利用者の入・退居の報告や行事報告、看取り支援についての報告等を行なっておられる。以前は、ご家族が一名参加されていたが、都合等もあって現在は参加が難しいようだ。会議内容については、来訪時口頭で伝えたり、議事録を送付されている。</p>	<p>ご家族も参加しやすいような会議に向けて工夫されて、サービスを利用する側からの意見や感想等も多く聞けるよう取り組まれてほしい。又、会議の機会を活かして、事業所がこれまで培ったケア等のノウハウを地域にフィードバックできるよう、取り組み等をすすめられてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 管理者はグループホーム連絡会に参加し市町村とは頻繁に連絡を取り合い、入所者さんの相談にも対応して頂いている。また二か月に一度介護相談員を受け入れている。</p> <p>(外部評価) 宇和島市の「だんだんネット」に登録をして、玄関に登録ステッカーを付けておられ、地域包括支援センターから行方不明の高齢者の情報等があった場合は、捜索の協力をするようになっている。又、徘徊模擬訓練等にも参加されている。市内の同業者で「グループホーム連絡会」がつくられており、電話で気軽に相談できたり、事業所相互で見学等して交流されている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 管理者は利用者のご家族と、自由に動くことの大切さと転倒のリスクについて充分話し合い身体拘束をしない取り組みをしている。またすべての職員が理解しケアをしている。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、玄関や居室の掃き出し窓は開けておられ、風がよく通っていた。又、窓からは周りの田畑の様子がよく見えて開放感が感じられる。職員会議時には、利用者が転倒しないような対応について職員から、利用者の「安全を守る」と、「自由な暮らし」の両面から身体拘束しないケアに向けて、「どのように利用者を支えられるか」話し合いを重ねておられる。又、勤務のシフトについても利用者の状態に応じて、臨機応変に変化させながら対応できるよう、話し合われている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の防止や見過ごしを年間の研修に組み込み、資料等にて学び徹底している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 親しい弁護士や、司法書士に指導して頂いている。管理者は制度を理解し相談等があれば支援できる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な時間をとり、利用者やご家族の不安や疑問点を尋ね、また質問を受け十分に理解をして頂き納得した契約となるよう努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 比較的頻回に面会に来られるご家族が多いため、その都度現状報告や要望を聞くようにしている。また意見や要望はスタッフで話し合い改善している。年4回発行するホーム便り等においても暮らしの様子を伝えている。 (外部評価) 玄関のチャイムを鳴らさず入って来られるご家族の方もおられ、職員はご家族を笑顔で迎え、ゆっくり過ごしてもらえよう、お茶等をお出ししている。利用者やご家族がいつでも話しかけやすいように、管理者は、職員に「バタバタしない」ことを日常的に話しておられ、すべての職員でゆっくりとした態度を心がけておられる。年末やお正月にお顔が見れなかったご家族には、利用者の担当職員が「お正月の様子」を手紙にして送っておられ、ご家族からお返事をいただいたりする。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 2ヶ月に一度職員だけでのユニット会議を行い主任より代表者へ報告をしている。代表者が会議に出席しないのは職員同士率直な意見が出やすいであろうとの配慮である。その為代表者は運営に関する意見や提案も、できる限り聞き入れるよう努力している。	
			(外部評価) 子どもがいる職員には勤務のシフトを配慮されたり、又、子どもが学校が休みの日には、連れて来られるよう別部屋をつくっておられ、職員から、「働きやすく、ありがたい」という感想が聞かれた。時に子ども達は、利用者の居室の仏壇を拜んで、利用者ご本人からお下がりのお菓子をもらうようなこともあり、利用者は子ども達の成長をととても楽しみにされているようだ。看取り等の支援については、管理者が責任を持って担っておられ、夜間泊まったり、付き添ったりされ、職員は他利用者のケア等にかかわるようにされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 時間外勤務はさせない、働きやすい勤務表の作成、職員の急病時の対応を行っている。代表者は個々の努力や各自向上心を持って働ける職場環境を整え、資格取得の奨励に取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の研修参加は運営規程にも定めている。皆が順番に希望する研修に参加できるよう勤務体制も整えている。また定期的に事業所内研修も行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他施設見学や食事会をして交流を図っている。また定期的に行われている宇和島市グループホーム連絡会へも参加し、情報交換や勉強会を行いサービスの質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始前には訪問調査やホームの見学も受け入れ、本人の希望や不安に対する話に耳を傾け、これからのホームでの生活が良いものになるよう配慮している。入居後も不安や要望を傾聴し安心して暮らせるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 御家族の思いを理解しようと努力し気楽に話せるよう配慮している。不安や要望等についてはできる限り解決ができるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前後において現在一番必要なサービスは何かを見極め、相談内容によっては他の事業所を紹介している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事や日課を共に行うことにより一緒に暮らしているとの意識の下、行った作業や家事に対して感謝の心と言葉をわすれないようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の時やお便り等でご本人の様子を伝えている。ホームでの生活は面会時間を設定せず自宅での生活の延長ととらえているため御本人の体調が悪い時は御家族が夜間も付き添って協力して頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近所の方や知人には入所時から変わりなく面会に来ていただいたり、季節にはお墓参り等に出かけられたり、なじみの関係を把握して支援に努めている。また退所されたご家族との交流もありボランティアや運営推進会議への参加もいただいている。 (外部評価) 以前、活動していた婦人会のメンバーが訪ねて来てくれる利用者もおられる。利用者は、みなを居室に案内しておしゃべりして過ごされており、ご本人は、お茶をみんなに出してほしいことを職員に頼まれるようだ。職員は、利用者のお客さんが来られている時には、お話が中断することのないように、極力声をかけることを控えるようにされている。事業所で看取った利用者のご家族は、帰省される時には必ず事業所に立ち寄ってくださり、管理者の方等と思い出話等して懐かしんでおられる。又、状態が改善してご自宅に戻られた利用者は、事業所にご家族と遊びに来られたり、ご家族のケアの相談に乗る等されており、そのようなご家族等との関係を管理者は「とてもありがたい」と感じておられ、うれしく思われている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握するため一人一人の思いを聞いて必要な場面には利用者同士の関係づくりを支援している。その際利用者個別に話ができる環境も整えている。またレクレーションや日課でお互いに交流が図れるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院等で利用が終了してもお見舞い、御家族の要望で支援している。サービス利用が終了された方からも個人情報への配慮やご家族の心情に配慮しながら行事への参加や連絡がいただけるなどの関係にある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その人らしい暮らしを続ける為に、入所時のアセスメントから始まり、日々のケアの中からも御本人の思いや希望を把握しようと努め、職員間で検討している。言葉では意思表示ができない方からも、表現や反応から希望や好みを把握できるよう努めている。 (外部評価) 入居前、管理者はご家族に、「ご本人の触れてはいけないこと」等も聞き取り、職員に周知して会話等でむやみに触れないよう、気を付けておられる。以前、真珠にかかわる仕事をされていた方と宇和パークに出かけて、真珠を見たり、又、戦争体験のある方と南楽園に展示されている「紫電改」を見に行かれたりして、その頃のお話を聞き、思いや意向の把握に努めておられる。事業所は、利用者の人生の最後まで寄り添うことに取り組まれており、管理者は、利用者の生い立ちやこれまでの経験等を理解し、それぞれの違いを肯定し受け入れながら支援に取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族、本人からは出来る限りの情報収集をしているが、独居であった方については難しい方もおられる。プライバシーにも配慮しながら入所時のアセスメントや日々の生活からも情報を収集している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入所時の情報や入所後の状況を観察し職員間で話し合うようにしている。毎日のバイタルチェックからは身体状況、心身状態等把握し、体調の変化などに気づくよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・御家族に事業所での生活について希望を聞き主にそれを中心にカンファレンスにて意見をまとめ作成している。それと共に事業所の理念である「ご本人が安心できる生活」に沿った支援が出来るよう計画作成している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>管理者は、ご家族に、利用者が安心して暮らせるよう、「大切だからご本人をホームにあずける、という気持ちでいてほしい」ことを話しておられる。又、入居説明時には、「いつでも連れて帰ってあげると言ってほしい」「家族は、100%利用者の味方であってほしい」と伝えている。介護計画についても、ご家族と相談して作成されており、ご家族から「昔から草引きをきれいにしていた」という話を聞き、近所の方のお宅の協力を得て、近所の方宅の草引きを継続して行なうよう計画を立てられた。近所のお宅の方にも喜ばれ、お礼に野菜等をいただくこともある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日勤帯、夜勤帯と介護日誌や介護記録にご本人の毎日の状態を記録している。カンファレンスの際には日々の暮らしやケアプランを客観的に見つめなおし介護計画の見直しに役立てている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>認知症のある方々が日々落ち着いた生活を送ることが出来るようその都度柔軟な対応をしている。たとえば本人・御家族の状況に応じて通院、外出の支援などを行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>御家族や地域の方の協力をいただきご本人の望む暮らしが出来るよう努めている。ご本人の出来る事を把握して安全に発揮できるよう見守りや声掛けをお願いしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人やご家族と相談してかかりつけ医を決めている。ご家族が受診に付き添われたり職員が同行して円滑に受診ができる体制を整えている。医師からの説明を聞く際には管理者がご家族と共に聞くようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所の近くに協力医療機関があり、定期・必要時の往診や検査がある時には受診に行かれています。終末期の方針等も、事業所と共有され、利用者やご家族の希望する終末期のあり方に沿い、協力をしてくださっている。調査訪問時、居間には、市報に載っている協力医の終末期のあり方の記事を掲示しておられ、利用者は写真を見て「先生はやさしいよ」と話して下さった。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 日常生活の中で気付いたことは看護職員に報告・相談するようにして、常に適切な対応ができ健康管理を行うようにしている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院時は出来る限り面会に行き安心できるようにしている。病院関係者との情報伝達が円滑に進むよう普段から報告、連絡、相談をこまめに行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者が重度化してから終末期のあり方等について希望を聞くのは難しいため、普段の会話の中から聞くようにしている。事業所は看取りの指針を定め、本人・御家族の希望を聞きながら、かかりつけ医を交えて話し合いをしている。</p> <p>(外部評価) この一年間で2名の利用者の看取りを支援されている。利用者によっては、ご本人の食べ慣れた片栗粉を練ったものを、最後まで食べられるよう支援された。他利用者は、ご本人の手をさすって差し上げたり、最期はお別れをされた。又、利用者同士で、「わるくなくても、病院に行かなくてもいいのが良いな」と話される等、最期まで事業所で過ごせるということを利用者もよく知っておられる。病院がお好きでない利用者もあり、喜んでおられるようだ。ご家族によっては、近くにある管理者の自宅で泊まる等して、一緒に見る方もおられる。利用者が亡くなったのちには、撮り溜めた写真を職員が編集し、BGMを入れて思い出のスライドショーを作り、DVDにしてご家族に心を込めて贈っておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護職員を中心に定期的に勉強会をしている。また緊急時マニュアルを作成し、万が一事故が発生した場合には慌てることなく対応できるよう普段より心懸けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防署と地域の協力者にも参加して頂き、避難、通報、消火を含めた昼夜の避難訓練を実施している。また運営推進介護のメンバーと共に訓練を行ったり、地元自治会の避難訓練にも参加して、災害時には協力して頂けるような関係作りをしている。	
			(外部評価) 前回の外部評価結果をもとに、運営推進会議時、地域との協力体制について話し合い、今年4月には、地域の方達と一緒に避難訓練を実施された。職員とともに地域の方達も消火器の使用方法を体験され、「よかった」と感想もあったようだ。7月には、地域主催の防災訓練が行なわれる予定で、裏山の避難場所まで実際に避難してみることとなり、グループホーム利用者が避難できるかということが、今後の安全に向けての環境整備の参考となるようだ。現在、管理者は、訓練参加についてご家族に一名ずつ説明して協力依頼をされており、その際、ご家族の参加も働きかけておられる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ホーム便り等も発行しているが個人情報には特別の配慮をしている。また日々の生活の中では誇りやプライバシーに配慮した声かけをしている。	
			(外部評価) 利用者が安心して暮らしができるように、職員はゆっくりとした態度で利用者に接することに取り組まれている。朝食の時間がゆっくりだった方は、皆が昼食の時には、居室で休まれており、あとで食事するようになっていた。昼食時、職員は、利用者の方に「エプロンかけましょうか」と聞いておられ、ご本人の意思を確かめてから支援されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴する事に心がけ利用者がいろいろな場面で意思表示が出来るよう支援している。日常生活の中では各担当者を中心にご本人の思いや希望を引き出すようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 天候や体調に合わせて可能な限り希望された日課を過ごして頂いている。また施設側の都合を優先させていないか、職員側のペースになっていないかミーティング等においては振り返りをするようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の行きつけの美容院やスーパーに出掛けている。ご家族にも協力して頂きご本人と共に衣替えをしたり、季節に合わせた服を用意して頂いている。可能な限りご本人が選んだ服装にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立は利用者からのリクエストや季節の食材を使ったものである。野菜や魚を多目に採りいれ地元の食材を使い会話しながら一緒に下ごしらえをしたり調理、後片付けをしている。出来るだけご自分で食べられるよう箸やスプーンを工夫して、時間がかかっても利用者のペースを守るようにしている。 (外部評価) 調査訪問時には、利用者が、「ぶっかけが食べたい」と職員と話しておられ、会話を重ねていくうちに、職員は、「冷汁」であることが分かり、いい魚が手に入れば夕食に作りたいとご本人に話しておられた。地域の方やご家族から野菜等いただきものも多く、食材をみながらメニューを決めておられる。好き嫌いのある方は、昼食の豆腐ハンバーグはご本人のお好きな卵焼きに代替えされていた。ご飯をお代りする方もおられた。事業所では、「嫌なものは無理強いしない」ことで楽しい食事となるよう支援されており、個々の好みの把握にも努めておられる。利用者はそれぞれのペースでご自分の力を使って食事をされており、食後は、他の利用者の食器を下げてあげる利用者や台拭きする方の様子もみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 健康維持が出来るように個別に食事量・水分量を把握し、一日に必要な量が摂取できるよう工夫して健康管理に努めている。また個人のファイルに記録も残している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後口腔ケアの声かけをし誘導、見守り、一部介助をしている。自発的にできない方へは、出来ない部分の介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>食事や排泄習慣の改善を支援して便秘しないよう取り組んでいる。職員はオムツに排泄する気持ち悪さを知ったうえで、一人一人の排泄状況をアセスメントして、トイレで気持ち良く排泄できるように支援している。声のかけ方ではご本人の自尊心を傷つけないような配慮をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>トイレへの入り口は開けておられ、中に入ると、入口がカーテンのトイレと、ドアのトイレがある。夜間、居室に念のためポータブルトイレを置いている方もあるが、職員を呼ぶ方や自分でトイレに行こうとされる方には、トイレ誘導して排泄支援されている。利用者の立場に立った排泄支援を目指して、利用者の気持ちを理解するため、職員もおむつを付けて排泄してみるような体験等もされており、職員個々は、トイレで排泄することの意義を理解して支援にあたっておられる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>なるべく薬に頼らないよう食事や水分を摂る事、運動を取り入れ便秘を解消している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者は週に2~3回入浴され、夏場には毎日入浴される方もある。朝入浴を希望される方もおられ、事業所の都合や時間帯を問わず本人の生活習慣やペースに合わせて支援している。入浴を拒否する方には入浴前に職員と一緒に着替えを用意したり馴染みの備品を用意したり個々に応じた支援をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>基本的に入浴日を火・金曜日に決めて支援をすすめておられるが、無理強いせず、日をずらしたり、清拭を行う等されている。介護度が重度の利用者も、職員が2名で介助して浴槽で温まれるよう支援されており、お風呂がお好きな利用者は、亡くなるその日も入浴して「気持ちよかった」と最後のことばを残されたようだ。</p>	<p>さらに、入浴の支援については、利用者一人ひとりがより楽しめるよう工夫はできないか、この機会を活かして職員で話し合ってみてはどうだろうか。さらに、ご家族とも一緒に話し合う機会を作る等して、個々のこれまでの習慣や好みを採り入れながら、お風呂がより楽しみになるような支援につなげていかれてほしい。</p>
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>遅い時間まで眠れない入所者さんには温かい飲み物を用意して夜勤者と共にテレビを観たり、会話を楽しみながら寝付くまで一緒に過ごすなどの努力をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診時には主治医から本人に分かりやすく説明して頂いている。職員も一緒に説明を聞き副作用等の情報も把握している。症状の変化があれば、主治医に報告しその都度対応して頂いている。また職員は、薬の処方箋を一覧にし常に確認しご本人に手渡す際には説明が出来るよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者やご家族から以前からの楽しみや趣味等を聞いておき、継続して行えるよう支援している。得意な事でホームのお手伝いをしたり、職員と外出し気分転換を図られている。嗜好品においては、好きな飲み物を用意したり、寝る前にお酒を飲む習慣のあった方には飲んで頂いたりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出を好まない方には無理強いをしないよう心がけ、「行きたいところへ行くことは当たり前」という考えのもと、出来る限りの外出支援をしている。遠出をしたい方には希望の日や時間帯を聞き、御家族や地域の方の協力を得ながら支援している。 (外部評価) 希望する利用者で散歩に出かけたり、季節に応じて南楽園に桜の花見に出かけたりされている。時には、利用者のご家族の方がドライブに誘ってくださり、出かけるようなこともある。利用者の中には「出かけたくない」という方もおられるようで、事業所では無理に外出をすすめるようなことはしないこととされている。個別に外出の希望があれば、できるだけその時に出かけられるよう、管理者が付き添い、支援されている。調査訪問時には、ご家族が迎えに来られ、ご自宅に戻っておられる方もおられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持っていないと不安な方にはご家族の理解をいただき財布に少額入れていただき、買い物に行った際にはご自分で支払いをし、社会とのつながりを感じて頂けるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人が十分に行えないことは支援しながら、御家族や友人に手紙を書いたり、贈り物が届いたら電話をかけるようにしている。又ご本人で携帯電話を所持している方も居られる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 事業所は田園に囲まれて周りには季節の木々が茂っている。天気の良い日には窓も開放して風通しには注意を払っている。時計やカレンダーを見やすい位置に掛け、季節の花を生け心地よく過ごして頂けるように配慮している。共用のテレビは音量調節等において配慮している。</p> <p>(外部評価) プランターにきゅうりを育てておられたり、玄関先には地域の方が持って来てくださったいろいろな種類の季節の花が、大きな甕に生けられていた。車いすを使用する方も、食事は椅子に座って食べられるよう支援されており、車いすは、歩行する方の障害にならないよう、居室にしまうようにされている。昼食後には、ソファに座りご自分でテレビを点けて、くつろいでいる方もおられた。きれいに掃除をしておられ、窓は網戸にして風通しをよくしておられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) それぞれの方が自分の場所があり、自由に過ごされている。気の合う利用者同士がソファで隣に座り話をしたりテレビを観たり、共用空間の中で思い思いに過ごせるような工夫をしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家具やソファ、飾り等馴染みの物を置かれ、今までと変わらない居室作りをすることによって落ち着いて暮らせるようにしている。ご自宅から仏壇を持ち込まれている方はご自分の好きな時間に語りかけたりしている。</p> <p>(外部評価) ソファを置いておられる方は、座って窓から田園風景をみて楽しまれたり、ご家族や知人が来られた時には使用されている。娘さんが用意されたサイドボードに、ご家族の写真を飾っておられた。昼食後、利用者は、思い思いに過ごされており、居室で休まれる方もみられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 家具の配置等を工夫し安全に暮らせるようにしている。また、廊下、浴室等においては手すりを設置し、移動の際には十分注意をもらうよう声掛けをしている。トイレの位置や居室の場所が分からない時には貼り紙などの工夫もしている。</p>	